



生きる。
今までも、
これからも。



飯舘村 べこやの 母ちゃん それぞれの選択

出演：中島信子 原田公子 長谷川花子

監督・撮影：古居みずえ

(『ガーダ パレスチナの詩』『飯舘村の母ちゃんたち—土とともに』)

編集：新谷拓治 整音：Cinema Sound Works Co. (渡辺丈彦)

製作：映画「飯舘村の母ちゃん」制作支援の会 配給協力・宣伝：リガード

2022年/日本/180分/日本語/ドキュメンタリー © Mizue Furui 2022

iitate-bekoya.com



飯舘村の女性たちを追い続けてきた古居みずえ監督による10年の記録——^{ドキュメント}渾身の3時間

全村避難を余儀なくされた飯館村で 牛と共に生きてきた母ちゃんたち

家族との暮らし、愛しい牛たち、住みなれた故郷……
何かを守り、何かを手放し、揺れ惑いながら前を向いて生きてきた心の軌跡



豊かな自然に恵まれた福島県相馬郡飯館村。かつてはブランド牛の生産地として知られ、酪農も盛んでした。しかし、福島第一原発事故後、放射能汚染が懸念された飯館村の牛たちは牛乳の出荷も、移動も、牧草地の草を食べることも禁止されます。さらには、2011年4月に全村避難が決定。村民の多くが暮らしと生業を突然うばわれてしまいました。2017年3月、帰還困難区域を除く全ての区域で避難指示が解除されましたが、6年という年月はあまりに長く、帰村した村民は約2割*にとどまっています。（※2022年12月現在）

牛を続けた人、やめた人。飯館村を離れた人、戻った人。この間、一人ひとりが大きな人生の選択をしてきました。牛(べこ)とともに生きてきた母ちゃんたちも、どん底の思いをしながら、それぞれが悩み、苦しみ、ときには笑いながら生きてきました。その強さと逞しさに惹かれたのはパレスチナの女性たちの取材を長年続けてきた古居みずえ監督。福島に拠点を構え、故郷、生業、家族のはざままで揺れる飯館村の女性たちの心情を丁寧に記録。10年以上の撮影・制作期間を経て「第1章 故郷への想い」「第2章 べことともに」「第3章 帰村」の全3章・3時間に及ぶドキュメンタリーを完成させました。



iitate-bekoya.com Twitter & Facebook 「飯館村の母ちゃんたち」で検索 🔍

3.18(土)より1週間限定 渾身のロードショー

当日金一般2,300円/会員・大専・シニア2,000円/高校生以下1,300円

横浜 R16 長者町5丁目交差点沿
シネマリン
045-341-3180
www.cinemarine.co.jp